

# 日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

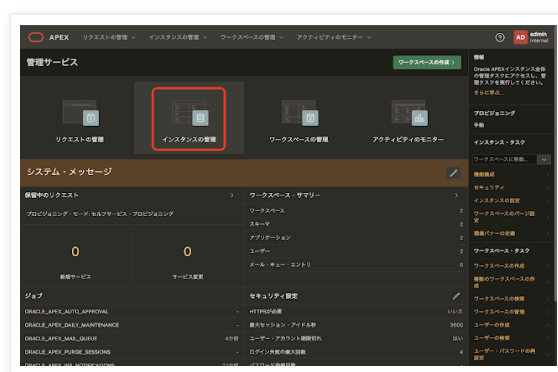
2021年11月4日 木曜日

## Oracle APEX 21.2新機能(10) - SAMLサインイン

Oracle APEX 21.2より、認証スキームとしてSAMLサインインが選択可能になっています。SAMLを選択可能にするには、管理サービスでの設定作業が必要です。



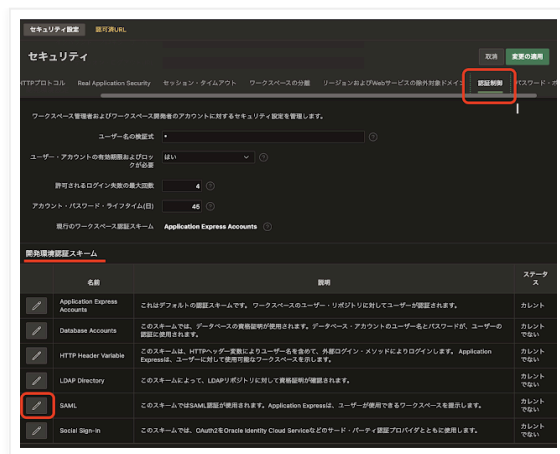
管理サービスにサインインし、インスタンスの管理を開きます。



インスタンスの設定のセキュリティを開きます。



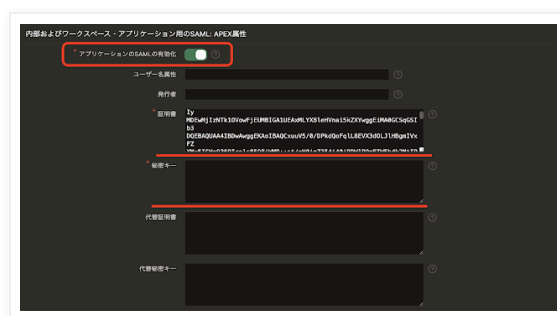
セキュリティの認証制御タブを選択し、開発環境認証スキームに含まれるSAMLの設定を行います。鉛筆アイコンをクリックします。



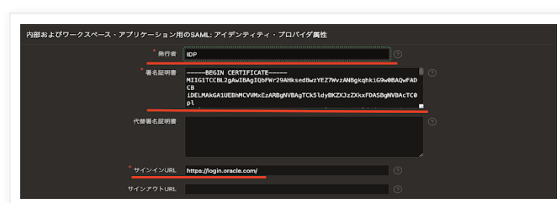
認証スキームの編集ページが開きます。



内部およびワークスペース・アプリケーション用のSAML: APEX属性のアプリケーションのSAMLの有効化をONに変更します。認証される側であるサーバーの証明書と秘密キーを登録します。ヘルプを確認する限り、秘密キーはPKCS#8フォーマットを受け付けるようです。一旦入力した秘密キーは再表示されることはありません。



内部およびワークスペース・アプリケーション用のSAML: アイデンティティ・プロバイダ属性の発行者、署名証明書、サインインURLを設定します。



以上を設定すると、認証スキームの選択肢にSAMLサインインが現れます。

ただし、データベース側ではRSA暗号の実装が必須で、ネイティブで対応しているのはDB19c 19.9 (OCT2020 DB RU)以降およびDB21c以降です。データベースのJavaの実装を使えばRAS暗号に対応できるのですが、そういった対応がAPEXの21.2のインストール・スクリプトに含まれているのか、別途対応が必要なのかは未確認です。以下のファンクションがYを返す状態であれば、RSA暗号の対応はされています。

```
dbms_output.put_line(apex_210200.wvv_flow_public_key_util.is_supported_yn);
```

実際にSAML認証の確認までは行えていませんが、待たれていた機能なので設定方法について紹介してみました。

## 追記

SAML認証をサポートするには、ORDS 20.4以降を使用し、以下のマニュアルの記載にそって、構成ファイルに**security.externalSessionTrustedOrigins**の設定を行う必要があります。

[https://docs.oracle.com/cd/F47724\\_01/aelig/migrating-mod\\_plsql-ords.html#GUID-ACAAB207-8475-403E-A757-304D7E76B2EF](https://docs.oracle.com/cd/F47724_01/aelig/migrating-mod_plsql-ords.html#GUID-ACAAB207-8475-403E-A757-304D7E76B2EF)

またDBMS\_CRYPTOパッケージにRSA暗号を扱うPKENCRYPT、PKDECRYPT、SIGN、VERIFYがAutonomous Databaseの19cにも含まれています。

## 完

Yuji N. 時刻: 12:29

共有

---

◀

ホーム

▶

[ウェブ バージョンを表示](#)

### 自己紹介

**Yuji N.**

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.

---